

植物でも昆虫でも、どうがんばっても種の同定に至らないものがたくさんあります。キノコも同じです。特にキノコの場合、幼菌と成菌、湿っている時と乾燥している時などで、形状や色味が大きく異なるので、よほど多くの経験がないと、種の同定は難しいのです。また、同一種でももともとさまざまな色のバリエーションがある種もあります。例えば「カワリハツ」（変わり初=ハツタケの一種）は一つの種で、赤、茶、緑など、いろいろな色があります。

私はキノコ類の同定にはかなり自信があるのですが、それでも、一発で「種名」まで同定できる確率は半分もありません。キノコの図鑑は何冊も持っているのですが、徹底的に調べるのですが、前段のような理由で、ついに「お手上げ!」「参った!」「終了!」ということも多いのです。

今回のキノコもそうでした。私は「ウスキモリノカサ」（薄黄森ノ傘）と「アタリ」をつけたのですが、どうも違うようです。どなたかご存知でしたら、お知らせください!

(2024年9月中旬/北軽井沢)

